

大阪 あちこち

●箕面滝道を訪ねて

箕面山には、大阪梅田から電車でわずか30分という便利さもあり、年間100万人を越える人々が訪れています。多くの観光客を魅了する箕面山の魅力は、落差33mの大滝と、春の桜、夏の清流とカジカガエルの美声、秋の紅葉等、豊かな自然であることは言うまでもありませんが、今回は文化・歴史の視点から箕面山を紹介します。

阪急箕面駅から『滝道』を進んで行くとまず左手山の中腹に「箕面観光ホテル・スパーガーデン」が見えます。ここには明治43年から大正6年までの短い期間でしたが、我が国最大の規模を誇った「箕面動物園」がありました。明治45年、当時豊川小学校の6年生であったノーベル賞作家川端康成は宿題の綴方で「箕面山」と題してここを訪れた事を書き記しています。

滝道を進んで行くと「府営箕面公園昆虫館」があります。日本の昆虫の三大宝庫（他は東京の高尾・京都の貴船）と呼ばれる箕面にふさわしい施設で、大人も



子どもも一緒に学習できる施設ですので、是非ご見学下さい。

昆虫館から、役行者ゆかりの古刹として、また富くじ発祥の寺としても有名な瀧安寺（箕面寺）を過ぎると左手の斜面の上に、試験管を右手に持った、野口英世像があります。大正4年、像のすぐ下にあった旅館『琴の家』に博士が老いた母を連れて立ち寄りました。その時の親孝行ぶりに感動した女将が、私財を投じるとともに、地域の人々の浄財を集めて建てられたものです。

野口英世像を過ぎ、ますます自然が深まる道を進んで行くと大滝にたどり着きます。滝の右には頼山陽の詩碑、左には後藤夜半の句碑があります。また、織田信長『信長公記』・松尾芭蕉『笈の小文』・赤穂義士の大高源五『二つの竹』・夏目漱石『彼岸過迄』等の文学作品から、彼らが訪れたことを知ることができます。

『笈の小文』の旅を終えた芭蕉は、次の連歌を残しています。

箕面の滝や 玉を簸らん 芭蕉

紅葉の季節には多くの観光客で賑わう箕面滝道ですが、紅葉の他にも多くの見所がありますので、是非おいで下さい。



▼お問い合わせ先▼

箕面市教育委員会生涯学習部生涯学習課
郷土資料館

TEL 072-723-2235